平成 22 年度　帰国隊員/青年支援プロジェクト　実施報告書　　提出日　　2011 年 7 月 11 日		
氏名：　瀬角　龍博	実施国：カンボジア	協力活動
活動名称	KASE-come（土着菌活用を伝えるプロジェクト）	

（1）計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

■　活動場所に変更があった。訪問予定地のうち 2 か所を取りやめ。1 か所を追加した。活動内容自体（土着菌培養、堆肥作りの指導）には変化はなかった。

■　経理面について、支出について予算と決算の差額（決算－予算）が大きかったものは次の通り。

渡航費　　：－12.4 万円・・・国内線（鹿児島-福岡）不使用のため
資機材費　：－4.9 万円
国内活動費：－8.3 万円

（2）実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

・少しずつではあるが、土着菌活用農法が着実に広がりつつあることを確認できた。
　シェムリアップとポイペトの 20 家庭で実践している。
・いくつかの家庭では収入増にもつながっていることを確認した。
　（例）貯金をできるほどではなかったが、トウモロコシや芋を植えて少しだけ収入を得て、モーター（水を汲み上げる機会）や、それの燃料費にあてた。（具体的数字は確認できず）
・大学で活動できたことは良かった。
　1 つの大学では副学長他数名の先生に対し、活動についてプレゼンテーションをした。
　もう 1 つの大学では学生 170 名に対し講義を行った。
・大学には、去年、土着菌活用の技術を伝えたのだが、大学関係者が実践している人はいなかったのが残念だった。先生には是非とも土着菌の技術を覚えてほしいと思う。
　≪推定原因≫
　土着菌活用農法は大学にとって、1 つの農法に過ぎない。
　実践しなくても、大学の活動に大きな影響はない。（農家の場合は生活に直結する問題）
　知識を得ることで満足している。
　≪対策≫
　大学同士を競わせる（お互いを意識させる）。1 つの大学で、別の大学でも活動していることを伝えたところ、表情が少し変わった。
　継続して活動する。可能であれば長期滞在して指導。
・メディア（テレビ局 2 社、新聞 2 社）に取り上げてもらったことによって、我々の活動場所以外の人々にも土着菌活用農法について、広く知ってもらえたのではないかと思う。

土着菌培養の実習

サトウキビジュース

（3）異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？ 　　または実施事業に対する一般の反響は？
活動に協力してくれているカンボジア人とは強い信頼関係がある。 主な理由としては、毎年継続して活動していること、技術への期待、そしてカンボジアを良くしたいという我々の熱意が伝わっていることだと思う。 一般の反響としては、例えばある村でワークショップを開いた場合、当事者である農家の方々は強い関心を示し、いくつかの家庭で実践してくれる。行政関係者、学校の先生などは、関心を示しつつも実践する人は少ない。 今回、テレビ、新聞で取り上げられ、また、有名なジャーナリストも関心を示しているので、次回以降、メディアをうまく使って、我々が紹介する技術をアピールできればと思っている。
（4）社会への効果（実施事業がどのように社会に活かせるか、活かしたか）
短期的には農家における収入増、食料の自給、食の安全につながる。 長期的には平和な社会の構築につながる。 我々が紹介する技術がカンボジア全土に広がれば、コストをかけないで各家庭で安心・安全な農作物を作ることができるようになり、国全体として野菜の自給や食の安全へとつながり、人々は心身共に健康になり、病気が減り、家庭の支出が減り、生活にゆとりができ、心にもゆとりができ、社会の平和へとつながる。